

平成 24 年度 第 9 回行政改革推進審議会 会議録（概要）

日 時：平成 24 年 11 月 16 日（金）午後 1 時 30 分～2 時 55 分

場 所：長野市役所第一庁舎 8 階 第二委員会室

出席者：委 員：高橋会長、塩沢副会長、香山委員、小林明委員、小林俊規委員、塚田委員、
成澤委員、村澤委員、山崎委員、若井委員

長野市：事務局（行政管理課）：竹内課長、丸山課長補佐、岩山課長補佐、上條主事

《資料》

- (1) 長野市行政改革大綱（概要版）
- (2) 第 6 次長野市行政改革大綱案
- (3) 人口推計
- (4) 財政推計（H24 年 3 月）
- (5) 第 5 次長野市行政改革大綱（概要版）
- (6) 第 5 次長野市行政改革大綱
- (7) 第 6 次大綱実施計画項目一覧
- (8) 45 畜産振興補助金等の見直し(訂正版)

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

(1) 第 6 次長野市行政改革大綱（案）について

（事務局）

＜資料(1)～(8)を説明＞

（高橋会長）

第 5 次大綱も参考に、第 6 次大綱案について順を追って確認したい。

2 ページ脚注の「大規模プロジェクト事業」で詳細別紙となっているが、その別紙がない。

（事務局）

別紙でなく、脚注の中に具体的な事業名を入れることとしたい。

（小林明委員）

同じく脚注の「財政推計」で詳細別紙参照となっているが、この財政推計については、専門部会でも見直してほしいと申し上げてきた。人口減少で税収は減ってくる。推計の税収は横ばいだが、その根拠が弱い。見直さずに掲載するのは違和感がある。

(事務局)

財政推計は次年度予算編成後の毎年3月に見直しをしている。本来なら平成25年度予算編成後の新しい推計を示せばよいのだが、現時点では無理なので、直近の本年3月のものとした。

(小林俊規委員)

部会では、この財政推計なら行政改革をしなくても大丈夫じゃないか、危機感が感じられないという議論をした。

(事務局)

現在の財政推計より財政状況は更に厳しくなることも予想されるというのが部会の意見であり、第6次大綱の期間である5年間だけではない、先の将来を見据えて、今からできることに取り組んでいこうということで部会案をまとめていただいた。

(高橋会長)

それを文章に生かしてほしい。厳しさを盛り込んでいただきたい。

(小林俊規委員)

「現行の財政推計に関わらず、より厳しい条件での財政運営が求められる」というようなことか。

(村澤委員)

「計画的な財政運営を行うことはもちろんであるが、将来の負担を抑制するため、より一層厳しい財政運営を行って、財政基盤を確立する」というようなニュアンスで。

(高橋会長)

「中長期的な財政推計をより精査し」とか「厳しく正確に」とか入れればよい。

また、非正規職員の人件費が今後重くなってくることが予測され、財政負担にのしかかってくる。文章が膨らんでしまうが、「人件費問題」という言葉も入れてほしいと思う。

(塚田委員)

個別的に挙げていくと、逆にそこから漏れてしまうものも出てくる。ある意味、包括的でよいのではないかと思う。

(高橋会長)

1ページの「行政改革の必要性」が第5次と比べると短い。この辺りはいかがか。

(小林明委員)

組立をシンプルにした。実際にやることが大切。この部分を書き込んでも、それによってどうなるものでもないから短くした。魂が入っていないと感じるなら、膨らまして構わない。

(高橋会長)

行革しなければならぬ危機感が具体的に感じられない。文章だけが踊っている印象を受ける。

第5次大綱に無くて、今回はっきり出てきたのは「歳入確保への取組」であるが、資料の実施計画項目一覧を見ると、利用者負担の見直しなど小口なものばかり。もっと大きな収入が得られるような取組も大事な行政改革だという提案であるのに、その意識が感じられない。まだ「行革＝節約」としか思っていないのは残念。例えば、長野市に住みたい人を増やす事業を行って、税収を確保することも大きな行革。積極的に取り組まないとジリ貧だ。スクラップ・アンド・ビルドだけでは追いつかない。それを文章で表現してほしい。

(小林俊規委員)

部会での議論は、企業誘致、雇用創出などを行い、ひいては市税収入を増やそうということ。確かに項目一覧では具体的には挙がっていない。

(事務局)

第6次の目玉として「地域経済活性化の推進」を入れていただいた。これについては、産業振興ビジョンや新1200万人観光交流推進プランの推進などに基づいて事業を進めている。まだ職員の意識が歳出削減に捉われてしまい、現段階では挙げきれない部分もある。この辺については、今進めていることを入れていけば盛りだくさんになると思う。

(高橋会長)

3月末までに、もっと掘り起こしていただいて、大綱が担保されるかどうかを確認していきたい。

(小林明委員)

具体的な項目を立てられないとするならば、財政構造見直しのプロジェクトをスタートさせるということでもよい。すぐに出来なくても検討プロジェクトを始めることも行革だ。

(若井委員)

3ページに「職員数の最適化」とあるが、もう少しはっきりした厳しき、将来を見通した方針を示したほうがよい。5ページ「歳出削減の取組」の中に「職員数（非正規職員を含む）の削減」という項目はあるが、中を読むと「適正な職員数」となっている。削減の方策を推し通すべきだ。

(小林明委員)

現在の業務の範囲では削減していこうということ。ただし、国・県から仕事の下りてきて、仕事が増えれば削減できない可能性もある。そういう議論の中で、こういう表現が精一杯だった。

(小林俊規委員)

第5次では「職員数の削減」とはっきり書いてある。

(事務局)

第5次は集中改革プランの期間であり、人員削減に取り組んできた。

「削減」とすると、今の職員数から何人減らすのかという議論になってしまう。仕事が増えていくことも予想されるので、誤解されないよう、部会ではこういう形で理解いただいた。

(塚田委員)

仕事が増えれば職員増の可能性もあるが、「職員数の適正化」というのは「減らしていく」というように読んでもらうということか。

(小林俊規委員)

「削減」という文字は入った。それも非正規職員まで含めて。

(若井委員)

公民館の指定管理者制度導入が進んでいない。全部一斉には難しいだろうが、一つでも実績を出してほしい。

(事務局)

実施計画の中に継続事業で残っており、今後とも取り組んでいく予定である。

(塚田委員)

「職員の意識改革」「職員力の向上」「組織力の向上」は、職員一人ひとりの資質を向上させることによって、今まで以上に力を出して、結果、職員数の減につなげていこうということか。

(事務局)

一人ひとりの生産性を上げることによって、サービス提供に当たっても人を増やさないでできると考えている。

(高橋会長)

第5次のほうが具体的でインパクトがある。第6次は総花的で印象が弱い。

(小林俊規)

確かに目新しいものはない。答申の際、市長に伝えてほしいのは進捗管理についてである。書いた中身はそれなりの絵が描けているが、その進捗を市長が厳しくチェックしなければ、また先送りになってしまう。進行管理の部分で審議会の意見を聞くのはよいとしても。

(村澤委員)

事務事業評価について、客観的に誰が見ても納得できるようなシステムがあればよいのだが。

(事務局)

来年度から、行政評価の外部評価をこの審議会で行っていただきたいと考えている。3ページにも「外部評価の導入」と入れてある。

(高橋会長)

進行管理の部分にもそれを入れてほしい。それも一つの目玉。

(小林明委員)

題目謳っても進まなかったというのが第5次の評価。今度は実行していくものにすることが一番大きな目玉であり、最後に「行政改革の推進に当たり」を入れた。

(村澤委員)

7ページの「任期付職員制度の活用」を乱用しないように。適正な活用ならよいのだが。

(事務局)

これは専門性が高い分野でのことであり、一般の職員の任期付ということではない。

(塚田委員)

必要な時に専門家を雇って短期間でやることは経費削減につながる。やり方だと思う。

(高橋会長)

「人材育成・活用に関する改革」の部分で、まだ具体的な取組が挙がってきていない。今後詰めてほしいと答申の際に申し上げたい。

(小林明委員)

確か研修費が1,500万円ほどと聞き驚いた。自前でやっている程度でよいのかという話だ。

(高橋会長)

以上、今日の意見を踏まえて、もう一度文章に工夫をしていただくことを条件に了とする。修正文をFAX又はメールで確認し、答申としたい。

4 その他

(事務局)

答申、パブリックコメントの日程を含め、今後のスケジュールを説明。1月から3月まで現メンバーで構成する委員会で、実施計画の審議と施策評価の意見聴取について外部評価の試行をお願いしたい旨を依頼。

5 閉会